

## 令和5年度 第4回静岡市在宅医療・介護連携協議会

- 1 日 時 令和6年3月13日(水) 19時15分～20時30分
- 2 場 所 静岡市役所静岡庁舎 新館9階 特別会議室
- 3 出席者 (出席) 岡 会長、岩上委員、金原委員、窪野委員、近藤委員、  
瀧 委員、坪井委員、中村(美)委員、東野委員、福地委員、  
山田委員  
(オンライン) 河西委員、吉永委員  
(欠席) 稲垣委員、中村(敬)委員
- 4 傍聴人 0人
- 5 次 第 (1) 開会  
(2) 議事  
①令和5年度在宅医療・介護連携推進事業実績(案)について  
②かかりつけ医の総合的評価による介護予防事業について  
(3) 閉会
- 6 会議内容  
(1) 開会宣言及び会議成立の報告  
(2) 議事

### 事務局

令和5年度在宅医療・介護連携推進事業実績(案)について(資料1)の説明

### 山田委員

基本的なことを教えてもらいたいが、今回「よくわかる在宅医療・介護2023年度版」とエンディングノートを1万部印刷するということだが、これがその後、足りそうな部数なのかと、このぐらいと目安があると思うが、市の人口から考えると、もっとあってもいいような感じもするが、その辺の規模感というか、どんな手応えか。

### 事務局

エンディングノートについては、部会の中でも、後期高齢者、高齢者数を鑑みると足りないのではないかという意見もありました。しかし、市公式HPで公開するということが、ま

た、専門職を通じて皆さんに配布すること、さらに、アンケートの回答等を参考に使いやすいノートに順次変えていくことから、ひとまず1万部作成することとしました。「よくわかる在宅医療・介護」につきましては、毎年度発行しておりますので十分な量だと考えております。

岡 会長

部数に対して、まずやってみて手応えを感じたら、また少し増刷するとか、いろいろな方法もあると思うが、どうか。

各委員

(意見なし)

事務局

かかりつけ医の総合的評価による介護予防事業について(資料2)の説明

岡 会長

この事業、成果が少し出ているというところだが、各医師会の先生方いかがか。

福地委員

令和5年9月20日に説明会を開き、11月からスタートして、2月までということだったので、手を挙げた先生方は2ヶ月ぐらいで患者さんを見つけて、報告するということがだったので、大変だったと思う。

今度、4月に説明会をやって、じっくりと対象となる人をもう一度を見て、選べるのではないかと思いますので、より良い結果が出るのではないかと期待している。意外と説明会に参加された医師の仕上げ率が高いということで、非常にありがたかったと思う。また、モデル事業で3年間、県の医師会が受けて、郡市医師会にお願いし、令和5年から市町に移ったが、全国的にこのような形で市町事業として、この一体事業を実施しているところは、まだ、ほとんどない状況ではないかという話を先日、聞いたので、全国的にも良いモデル事業になるのではないかと期待している。

吉永委員

令和5年度は、説明会をあわただしく行ったということであったので、令和6年度の4月の説明会に関しては、できるだけ清水でも多くの先生方に参加してもらい、周知徹底するということが、事業としては非常に期待でき、かかりつけ医の参加というのを今回は、進めていきたいと思っている。

## 東野委員

行政と事業のスキームについて、いろいろと議論させてもらい、2点ほどスキームの中で懸念する部分がある。

一つは、かかりつけ医を受診するプロセスが、社会参加していない人に対しては、億劫になるところもあるため、そこをどうアウトリーチしていくかである。

リスクが高そうな人は、KDBシステムのデータに基づき受診勧奨して、かかりつけ医の指導、処方を受けて、次のステップで地域包括支援センターの紹介で介護予防事業等へ繋げていくという流れが必要である。この流れにしないと、効果を必要とする人たちを抽出して、効果的に繋げることはできないので、そういう試みも、本事業を進める上で重要である。

もう一つは、かかりつけ医が社会的処方をすることによって、自分にとって良いことになったという話は出てくると、満足度も高く、そして良い効果を得られたという結果は出てくると思う。

ただ、一過性の結果にならないように、継続的に通いの場や、介護サービス、ボランティア活動にいかにか継続していくかが大事になってくると思うので、効果検証は、そこを見ていかないといけない。手帳等で自分が実施した記録を残したり、それをまた見てもらいに行くといった母子手帳のようなイメージのものを、定期的にかかりつけ医に見せながら、より良い方向にまたアドバイスをもらうという、そういう繰り返しを長くやっていくことで、継続性というのが担保されるのではないかと思われる。そういう試みもやっていってもいいのではないのか。

現事業については、うまくいっているので、より良いものにしていくために、そういうポイントというのは必要である。

## 岡 会長

地域包括支援センターの負担が増えるという声が多々あったが、いかがか。

## 中村（美）委員

実際この話が来たときに、どうなるのだろうという不安はあった。他圏域の港南地域包括支援センター圏域にある病院から一件あった。1か月は、本人から連絡が来るか、あるいは来所を待つ。1か月経過しても何もアクションがない場合はこちらから電話をするというルールになっている。

被評価者から何のアクションも無い場合、地域包括支援センターからの連絡を忘れてしまうんじゃないかという不安がとて強かったので、その月の継続者リストに必ず載せるようにして、その翌月の頭で確認をするようにした。実際、電話を3回ほどしたが繋がらず、留守番電話にもならず終了した。かかりつけ医が紹介してくれたのに連絡が取れず繋がらないのは、とても残念だった。

本ケースは、違う圏域のかかりつけ医からの紹介だった。被評価者が地域包括支援センタ

一に縁がなく、場所がよくわからない、敷居が高い等をってしまったのかもしれないと考えた。圏域外のかかりつけ医の診療所にも、地域包括支援センターのチラシ、わかりやすい地図や写真が入っているものを、置いてもらえるような取り組みが必要と思った。

#### 岡 会長

住所地と違う、離れた医療機関に受診する患者も多い。範囲が広いので、地域包括支援センターとの交流がないというところでの連携はなかなか難しい。住所地に近い地域包括支援センターと、かかりつけ医がどれだけ密接に連携しやすくするかということが課題である。患者からすると、行きやすい医療機関や、自分のことをわかっている医療機関にかかるということは大切なかもしれない。

#### 福地委員

被評価者の住んでいるところと違う包括圏域の診療所に通っていて、そのかかりつけ医は自分の圏域の地域包括に行くように伝えたのですか。本事業は、その被評価者の住所地の地域包括支援センターへ誘導するはずで。その被評価者は、自分の住所地の地域包括支援センターを、よく知らなかったということですか。

#### 中村（美）委員

知らなかったと推測されます。

#### 福地委員

そのかかりつけ医は、その被評価者の住所地の地域包括支援センターへ誘導していた。でも、その被評価者の住所地の地域包括支援センターに、親しみがあったというわけでもない。その方はどちらの地域包括支援センターに行ってもよいのか、よくわからなかったという人かもしれない。地域包括支援センターの地図等を渡していたかどうかもわからない。

もしそうであれば今後は、案内する地域包括の地図を我々が渡すようにするということが一つ。地図と電話番号とか、パンフレットは渡すということが必要ではないかと聞いていて思った。

#### 事務局

中村委員の推測でしかないのかもしれないが、やはり先生方に、自分の圏域外の地域包括支援センターの情報までは把握が難しいであろうとなると、中村委員が発言してくれたように各地域包括支援センターが作成しているチラシ等を参加しているかかりつけ医の手元に置けば、誘導しやすく、被評価者にとっても連絡しやすいかと思われた。

#### 岡 会長

身近に住んでいた高齢者が、清水区の息子さん夫婦のところに引っ越して、清水区から通院している患者がいる。介護予防が必要と判断し、清水区の地域包括支援センターに電話して、介護予防の場に繋いでもらったというケースがある。

静岡市が一体になって、こういうことをやっていけるような仕組みがやはり必要なのかもしれない。区をまたいでいろいろな高齢者が受診するので、ぜひ、そこに対してバックアップしたい。

今回、実施人数が少ないが、年代的に区切り過ぎたということはないか。この年代だと既に要介護になっている人が非常に多いので、前の段階で、フレイル予防に取り組んでいった方がいいのではないかと思うが、東野委員はどうか。

#### 東野委員

フレイル予防には、早い段階から取り組むことは効果的でいいと思う。それを進めるためのスキームが必要だと思う。

#### 岡 会長

どうしても人数が限られて、年齢的な制限から外れてしまい、地域包括支援センターにもなかなか繋ぎにくかったということもあるので、もう少しフレキシブルな方法もあってもいいと、私自身は感じたが、福地委員、いかがか。

#### 福地委員

当医院に通ってる患者は、85歳ぐらいまでの間で繋がらなくなるとは思われる患者もいたので、上の年代を伸ばしてもいいかなと思った。市の事業としてやるにあたって、いろいろ考えなくてはならないと思うが、確かに年齢は広げてもいいと思う。

先ほどの東野委員の話の中で2点の指摘について、1点目、当市の高齢者は、8割から9割はかかりつけ医がいるので、受診のハードルは非常に低い。ただ問題は、かかりつけ医をもっていない方も実際にいる。それに対して静岡市は、健康づくり推進課で別の事業を実施しており、KDBデータから拾い上げてかかりつけ医に繋げるということを実施しているので、静岡市は受診、未受診の両面から介護予防事業に誘導できているというふうに認識している。

2点目だが、通いの場に通っていたが辞めた情報や通っているの効果が情報が、我々の方に入った方がいいと思う。そういう意味では、通いの場等からの情報を、かかりつけ医に出す、もしくは患者さんを通して伝える、そんな仕組みも加えるといいと思った。

#### 岡 会長

介護予防の現場に関して、医療機関はほとんど何も知らない。地域のサービスがどんな様子で行っているのか、月に何回やっていると等全くわからない。社会的処方医療機関がや

るべきかどうかというのはちょっと、まだこれから議論が必要な部分だろうと思う。でも、地域の高齢者をどうやって支えていくかというところで、考えながらいろいろ修正をフレキシブルに書きながらやってみるということも必要かもしれない。

地域包括支援センターの大いなる負担は、問題がある。地域のケアマネジャーが介護予防の方にどれだけ一緒にやってくれるか。ある程度のボリュームがないと、ケアマネジャーとしては、やりにくい部分もあるかもしれない。その辺に関しては、何か情報はあるか。

#### 近藤委員

私達ケアマネジャーのところには、介護保険を申請したいということで相談にこられるので、介護認定を受ける方になる。

私達が現場で困るのは、介護認定の要支援等低いところで認定を受けてた方が、更新をしたら認定から外れてしまい非該当になってしまうケースが、地域包括支援センターも把握しない、ケアマネジャーも担当から外れてしまうので、どういう状況になっているか把握ができないことである。今まで担当していたので、3か月過ぎたら電話する等、時々、様子を聞くが、このような状況を今後どうしていくかということも念頭に置いてもらいたい。かかりつけ医の先生方が、そのような方に対して受診時にフォローしてもらえるとありがたい。

#### 岡 会長

わかりました。そういうところを調べて考えていきたいと思う。

来年度事業のところ、できることからやっていきたい。

#### 東野委員

ゆっくりやっていければいい。限られた予算の中で、やれることを少しずつ形にしていけばいいと思う。

#### 金原委員

本事業に参加した、かかりつけ医が28人とあるが、私が実際行っている医師が入っていない。私が通っている病院は患者が多いので、対象者も多くいるはずである多くの先生方が参加してもらえればと思う。かかりつけ医は、事業参加を拒否しているのか。

#### 福地委員

拒否ではなく、手をあげてくれなかった。今度の説明会のときには、そういう市民の声があったということを一言付け加える。

#### 岩上委員

かかりつけ医からの判断で、中断した歯科へ定期受診を再開したという話があったが、オ

ーラルフレイル予防は、フレイル予防にも繋がるため、歯科医師会もこの事業に多少なりとも関係できたことはよかった。

今後、いかにかかりつけ医から歯科への受診勧奨が増えるかと、考えてみた。診療情報提供書について、チェック方式にする等もっと簡単に歯科への情報を書いてももらえるものを作ってもらえたら、歯科医への受診も増えるのではと思った。

#### 岡 会長

歯科と医科の連携がここ数年増えてきた。例えば骨粗鬆症の薬を飲んでいるという情報、糖尿病患者についての情報共有等、眼科医も含めて一緒に診ていくスタイルがだんだん増えてるため、今後も一緒に取り組むことが多くなると思う。

#### 瀧 委員

効果検証について、先ほど東野委員からも、事務局からも説明があり、今回はとりあえず目的としてはこの仕組みを作って、介護予防の促進をしていくというところでアンケート調査をして、どうなったかの結果をもらうということだが、本当の効果検証を市として取り組んで、これだけ高齢者が良くなったというデータを取るためには、元のデータと比べる。

また一番初めにかかりつけ医で実施したときの質問と比べてみて、例えば半年後、1年後どう変化していくか、フレイルと思われた人がフレイルの状況ではなくなった等、データも最終的に蓄積してもらえると全国的には、市の取り組みに効果があったというところに繋がるような感じがした。

#### 岡 会長

通いの場にリハ職が参加しているところもあるが、どこのリハ職がどういうスケジュールで出かけているのか、そういうことがわかると、かかりつけ医としても患者を勧めやすいかもしれない。

#### 坪井委員

今回は75歳以上80歳未満で、私の母親は84歳で、介護認定を受けていなく、他者との交流や社会参加もないという人なので、ぜひまた年齢のところも検討してもらいたい。ただあまり増えすぎると包括支援センターもパンクしてしまうかと思うが、これから若い65歳以上の人たちも、人数がもっと増えていくので、下げた方がいいのか、もうちょっと上げたところで、拾っていくのがいいのか、そこもちょっとまた検討をしていく必要もあると思う。

#### 中村（美）委員

やはり、かかりつけ医の先生から、こういう所に行った方がいいよ、こういう所に相談した方がいいよと背中を押してくれることは、患者にとって大きな効果となる。ぜひ福地委員

もおっしゃっていたように、手を挙げてくれるかかりつけ医が増えてくれるとありがたい。

また、地域包括支援センターに繋がらなかったケースが、なぜ繋がらなかったのか、そこがわかると改善の余地があるかと思うので、お願いしたい。

#### 岡 会長

市民1人1人を見守っていくのにICTの利活用が必要ではないか。地域包括支援センターと医療機関は、同じ人をそれぞれ見守りの強化をしながら一緒に支援していくようなものが必要かもしれない。

市は、ICT（シズケア\*かけはし）の利用度は多くないが、利用できる施設が多くなっているので、ぜひそういうことも考えていきたいと思うが、福地委員、どうか。

#### 福地委員

効果の検証に関してだが、最終的なゴールは、この事業で見ている方とそうじゃない方の介護保険の認定率の差があったかどうかというのが一つのポイントだと思う。そのようなデータが出せるような、集計をしていてもらいたい。

#### 岡 会長

その辺は、来年度、行政と皆様と一緒に考えていきたいと思うが、山田委員いかがか。

#### 山田委員

今までの話からだ、この事業の大筋の枠組みというか、もう大体、進んできたと思うし、必要なパンフレット類も整備されてきているので、来年度からの、どの辺が本事業の主な内容になるかということ市は想像しているのかを、すこし聞かせてもらえたらと思った。参加していただいているかかりつけ医の方が、まだ少ないというところで、まず規模拡大というところが一つあると思うが、それ以外に何か目指しているところがあれば聞かせてもらいたい。

#### 事務局

まさに、まずは規模を拡大というところを大きく目指している。そのために、4月に両医師会合同の事業説明会を実施する。

アンケート結果も出ておらず、各地域包括支援センターで取り組み中である。今現在で、市として考えているのは、より多くのかかりつけ医に参加してもらいたい、入口を増やしたい。

参加してもらえる医師にインセンティブになるような、例えば、市のホームページに参加医療機関名を掲載する等を検討している。

今年度の本事業の効果検証とスキームの見直し等は、新年度の協議会、そして企画・情報

共有部会で実施していきたいと思う。

岡 会長

先ほど福地委員からの話があったが、生活習慣病や健診データで、少し異常がある等の人に対して、受診を呼び掛けているが、そこに介護予防を目的に通いの場等に行った方がいいかもしれないからかかりつけ医と相談してください等のようなことが、入っていてもいいと思うが難しいか。

事務局

既に介護予防という観点もしくは一体的実施という観点から、市では既に連携し実施できている。

先ほど言った、未受診の患者さんを担当している健康づくり推進課でも、こちらの事業のことをよく理解し連携している。未受診の方や、健診データが悪い方たちがどう処遇されているかというのは十分わかったうえで、この事業を位置づけている。

個々の人に対しての受診勧奨に関しては、かかりつけ医に必ず行くようにということ、必要に応じて地域包括支援センターへ繋げるシステムになっている。かかりつけ医を持ってらず、健診だけをやっている人には、必ずかかりつけ医を持つよう啓発している。本事業も、その他の事業を意識し、輪に入れてもらい、高齢者を繋げることを大事にしたいと思っている。

岡 会長

かかりつけ医の参加を呼びかけていくというところは、各医師会やっていけるのか。

福地委員

来年度、この事業に取り組むものとして、一つは手を挙げる医療機関の拡大、もう一つは、評価の基準をどうやって作るかを協議したほうがいいと思う。

通いの場における評価の仕方、ボランティア活動に参加した方等の効果をどのように評価するかという基準を作ること、そこを協議した方がよい。最終的なことに関して、この介護予防の効果があったのと言えるのは、認定率が被評価者とそうでない方と違うかどうかを検証する。これは5年、10年単位でのデータ検証になると思うから、そこを見据えて、どのようにデータを集積し分析するのか、そのためにどういうデータを揃えなくてはいけないのかというところを検証する場を持った方がいいのではないか。

もう一つは、通いの場等で実際どんなことをやっているかの情報をどうやって、かかりつけ医に伝えるか、その仕組みを作る。この二つを来年度以降、取り組んだ方がいいと思う。

(閉会)

■会議録確認署名

「令和5年度 第4回静岡市在宅医療・介護連携協議会 会議録」について、  
内容を確認しました。

静岡市在宅医療・介護連携協議会 会長

氏名 (署名) 岡 興一郎